

患者さん宅訪問に取り組みました！

2020年11月

新型コロナウイルス感染症の流行が長引いており、

“外出控えて足腰が弱くなる”

“人との交流と会話の機会が減る” “仕事がなくなり収入が減る”

など、健康が維持できない状況が発生しています。

京都民医連あすかい病院では、その実態を把握するとともに、できる支援を行う目的で、4～7月に「京都左京健康友の会」*の会員さんを対象として、電話による訪問を行いました。

そして今回、11月3日（火・祝）に、

地域にお住いの患者さん宅への訪問を行いました。

当日は、病院職員など27名と健康友の会員13名の計40名で、病院周辺・岡崎・上高野の3つの地域を訪問しました。

全体で108軒の患者さん宅を訪問し、71名の方とお会いすることができました。



対話の中で、体調や困りごとなどないかを伺うとともに、健康友の会への入会案内や署名へのご協力をお願いしました。

「症状が悪くなり娘との同居を考えている」「介護の認定を受けていないので費用が高い」「妻、義弟の介護で大変。今は頑張っているが今後は不安」「体調不良で明日あすかい病院に入院します」などの声が出されました。

また、健康友の会に入会された方は「母の介護をしていて遠くに行けないが、集会所なら近所なので、コロナが終息したら企画に参加してみたい」「足が達者な認知症の方への対応の仕方など知りたい」など話されました。

お話を聞きする中で、専門家の相談や支援が必要と判断した場合は、情報を共有し対応していくこととしました。

短時間ではありましたが、「押し車を押すのが難しい路地に住んでおられる方もおられた」「5階建てのマンションなのにエレベーターがない」など、地域の患者さんが抱えている様々な実情を把握することもできました。



上高野地域の訪問には院長も参加しました

今回の訪問を、今後の医療・介護活動につなげていきたいと思えます。

訪問を快く受け入れていただいた患者さん・ご家族、そして、ご協力いただいた健康友の会員のみなさん、ありがとうございました。

*「京都左京健康友の会」とは、「健康で安心して住み続けられるまちづくり」をテーマに、地域に住まう人々の健康づくりや居場所づくり、ボランティア活動などに、病院と一緒に取り組んでいる団体です。